

2025 年度
自己点検・自己評価報告書

令和7年 8月 1日

社会福祉法人 大和清寿会

HAYAMA International Language School

報告の見方

1. 点検・評価項目の設定は、一般財団法人日本教育振興協会の「日本語教育機関のための自己点検・評価の手引」をベースにした。
2. 点検・評価項目にそれぞれ小項目を設け、それらを個別評価（ABC）し、項目ごとに現状・具体的な取り組み/課題などを記述した。
3. ABC 評価の内容は次のとおりである。
 - A：達成されている。
 - B：ほぼ達成されているが、不十分なところがあり、改善に取り組んでいる。
 - C：達成に向けて努力している。

2025 年度 HAYAMA International Language School

自己点検・自己評価報告書

1. 理念・教育目標	評価
1.1 理念・教育目標が社会の要請に合致していることを確認しているか	A
1.2 理念・教育目標及び育成する人材像が、教員及び学生に周知されているか	A
1.3 育成する人材像を簡潔に記述されているか	A

【教育理念】

- ・ 自国で介護・看護の専門知識や技術を学んだ留学生や日本の介護技術を学びたい留学生に、日本語習得や日本文化に触れる機会を提供する。
- ・ 更により高度な専門知識を持ち、日本及び諸外国の高齢者を支える人材を育成する。

【教育目標】

- ・ 日本語参照枠を参考にして授業内容を構成し、日本社会で活躍するための日本語運用能力を育む。
- ・ 学習者同士のピア・ラーニングにより、能動的自律的に学べる環境を作る。
- ・ 多文化共生社会を推進するため、卒業後、学生が地域の一員として介護福祉職に従事できるサポートをおこなう。

【目指す人材像】

- ・ 日本語運用能力が上達するだけでなく、人間的に大きく成長し、自信に溢れた希望の進路に進める人材を育む。
- ・ 日本社会において協働できる人材、具体的には「挨拶、笑顔、規範意識の醸成、自律学習、自己研鑽」の育成を目指している。

【現状・具体的な取り組み/課題】

- ・ 本校は、将来の介護人材を育成するための一環として「日本語習得」を目的に、2019年10月に創立された。昨今の課題である「介護人材不足」の一端を解決するため、日本で介護福祉士を希望する留学生に、日本語指導、介護施設へのインターンシップを行っている。卒業後は介護福祉士として、介護施設で働く流れが大事だと考え、南アジア東南アジアなどから介護専門学校への進学を希望する学生に日本語指導を行っている。学生が主体的、自律的に学べる協働学習を目指している。
- ・ 限られた授業時数の中、教職員が一丸となり日本語や介護知識の習得を目指している。歴史の浅い学校ではあるが、教育理念・教育目標を明確に定めており、誰もが視聴できる学校のホームページやパンフレット等を準備している。このような取組は日本社会の変化やニーズに合致しており、新しい視点で高齢化社会を支える一助と考える。

2. 学校運営	評価
2.1 運営方針は日本語教育機関の告示標準に適合しているか	A
2.2 運営方針が明確化され、教職員に周知されているか	A
2.3 管理運営の諸規程が整備され、規程に基づいた運営が行われているか	B
2.4 意思決定が組織的に行われ、かつ、効果的に機能しているか	B
2.5 予算編成が適切に行われ、執行ルールが明確であるか	B
2.6 外部からの情報収集が効率的に行われ、かつ、共有化する仕組みがあるか	B
2.7 学生、入学志願者及び経費支弁者に対して、理解できる言葉で情報提供を行っているか	A
2.8 授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対応しているか	A
2.9 業務の見直し及び効率的な運営の検討が定期的、かつ、組織的に行われているか	A

【現状・具体的な取り組み/課題】

- ・ 本校は発足以来、校長と教職員が共に「日本社会で活躍できる人材育成」に取り組んでいる。学校運営は組織化され、日本語教育機関告示基準に基づき、最新システムを取り入れている。組織的意思決定を図るため、法人グループリーダーとの意見交換を定期的実施している。
- ・ 学生支援部を中心に相談窓口を設け、教職員が常時対応できる体制をとるとともに、更に充実を図りたい。

3. 教育活動の計画	評価
3.1 理念・教育目標に合致したコース設定をしているか	A
3.2 教育目標達成に向けたカリキュラムを体系的に編成しているか	A
3.3 国内、又は国際的に認知されている熟達度の枠組を参考にしてレベル設定しているか	B
3.4 教育目標に合致した教材を選定しているか	A
3.5 補助教材、生教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、著作権法に留意しているか	A
3.6 教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られているか	B
3.7 教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしているか	A

【現状・具体的な取り組み/課題】

- ・ コース設定では、日本語運用能力と日本語能力試験資格取得の両面を目指している。入学後のプレースメントテストによりレベル別クラス分けを行っている。1年コースと1年6ヶ月コースを設定し、定期テストごとにレベルにあったクラスで

の授業や補講を実施している。

JLPT に向けた講座を設定して実施している。

コースデザイン、授業カリキュラム、評価を考える上で、日本語参照枠を参照している。これにより課題解決能力、異文化理解能力の向上を目指す。

- ・ 教員については、学習者の未来を支える教員人材の育成にも注力し、若手とベテランが共に学び合う体制作りを遂行中である。
- ・ 定期的に教務会議を実施、教員間の共通理解が深まるように努めている。

4. 教育活動の実施	評価
4.1 授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っているか	A
4.2 教員に対して、担当するクラスの学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を達成しているか	A
4.3 開示されたシラバスによって授業を行っているか	A
4.4 授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録しているか	A
4.5 理解度・到達度の確認を実施期間中に適切に行っているか	A
4.6 学生の自己評価を把握しているか	B
4.7 個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援を行っているか	B
4.8 特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けているか	B

【現状・具体的な取組/課題】

- ・ 概ね先行シラバスにより、主任、担任を中心に授業運営や情報開示を行っている。
- ・ 出席、成績もシステムによって管理されており、常に主任、担任が更新している。
- ・ 年2回の定期テストや、テキストの課目毎テストで各学生の到達度を図り、レベルにあったクラス編成を実施し、JLPT など日本語能力を図る外部試験を皆受験としている。
- ・ 個別学習指導については、限られた時間を活用して工夫しながら取り組んでいる。

5. 成績判定と授業評価	評価
5.1 判定基準及び判定方法が明確に定められ、適切に行っているか	A
5.2 成績判定結果を明確に学生に伝えているか	A
5.3 判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証しているか	A
5.4 授業評価を定期的実施しているか	A
5.5 評価体制、評価方法及び評価基準が適切であるか	B

5.6 学生による授業評価を定期的実施しているか	B
5.7 授業評価の結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取り組みに反映されているか	B

【現状・具体的な取り組み/課題】

- ・ 成績判定の根拠としては年2回の定期テスト（作文、会話テストも含む）、提出物、小テスト、単元テストに出席率も加味した点数の絶対評価、ABCDE判定である。これには詳細な評価基準を設けている。以上の判定から教師間の客観的な意見交換後、総合的な成績判定とする。
- ・ 授業記録、出席簿、学生の成果物などはデータ化して一定期間保存する。
- ・ 授業評価は、学習者の声、校長、教職員間で可能な限り共有を心掛けている実施している。

6. 教育活動を担う教職員	評価
6.1 校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権利を明確に定められているか	A
6.2 教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質を明示しているか	A
6.3 教員及び職員の採用方法及び雇用条件を明文化しているか	A
6.4 教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取組をしているか	A
6.5 教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振る舞い、ハラスメント防止等に関する研修を行っているか	B
6.6 教員及び職員の資質能力の向上を適切に図っているか	B

【現状・具体的な取り組み/課題】

- ・ 教育目標達成のため、校長、主任、事務課長、学生支援部長を中心に教職員の遂行業務の点検をし、課題解決に向けて取り組んでいる。
- ・ 目標としては全教員が初級から上級まで、また4技能全ての授業を行えることとし、互いに切磋琢磨できる体制を作っている。

7. 教育成果	評価
7.1 入学から修了・卒業までの学習成績を記録、保管し、適正に管理しているか	A
7.2 修了・卒業の判定を適切に行っているか	A
7.3 日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握しているか	A
7.4 卒業又は修了後の進路を把握しているか	A

7.5 卒業生及び修了生の状況を把握するための仕組みを行い、進学先、就職先等の状況や社会的評価を把握しているか	A
---	---

【現状・具体的な取り組み/課題】

- ・ 学生管理システムを活用し、学籍管理、出席管理、成績管理を実施している。定期的に進路指導、生活指導、面談を行い学生が意欲を持って学業に専念できる環境を整えている。卒業後の進路状況の把握にも努めている。

8. 学生支援	評価
8.1 学生支援計画を策定し、支援体制を整備しているか	A
8.2 生活指導責任者が特定され、その職務内容及び責任と権限を明確に定めているか	A
8.3 日本社会を理解し、対応するための取組を行っているか	A
8.4 留学生生活に関するオリエンテーションを入学直後に実施し、また、在籍者全員を対象に定期的に実施しているか	A
8.5 住居支援を行っているか	A
8.6 アルバイトに関する指導及び支援を行っているか	A
8.7 健康、衛生面について指導する体制を整えているか	A
8.8 対象となる学生船員が国民健康保険に加入し、併せて留学生保険に加入しているか	A
8.9 重篤な疾病や障害のあった場合の対応、及び感染所発生時の措置を定めているか	A
8.10 交通事故等の相談体制を整備しているか	A
8.11 危機管理体制を整備しているか	A
8.12 火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所等を定め、避難訓練を定期的に実施しているか	A
8.13 気象警報発令時の措置を定め、教職員及び学生に周知しているか	A

【現状・具体的な取り組み/課題】

- ・ 学生には入学時よりオリエンテーションを行い、警察との連携で交通ルールの指導、市役所提出書類の記入、生活上のルール（ゴミの分別、衛生管理）、インターンシップに関するルール、危機管理指導なども行なっている。
- ・ 県の避難訓練(ナラ・シェイクアウト)に奈良介護福祉中央学院と共に参加。
- ・ 自然災害・火災等に関しては情報を収集し、都度適切に周知している。

9. 進路に関する支援	評価
9.1 進路指導担当者を特定しているか	A
9.2 学生の希望する進路を把握しているか	A
9.3 入学時からの一貫した進路指導を行っているか	A

【現状・具体的な取り組み/課題】

- ・ 進路指導に関しては、介護福祉関連の専門学校や介護福祉専攻科への進学を目指して進路指導を担う担任教師と教職員全体が情報共有し、介護の知識についても日本語学校在学中に学べる機会も構築している。
- ・ 奈良介護福祉中央学院、近畿社会福祉専門学校、奈良県立宇陀高校専攻科と連携している。

10. 入国・在留に関する指導及び支援	評価
10.1 入管事務担当を特定し、その職務内容及び責任と権限を明確に定めているか	A
10.2 担当者は、研修事項等により最新、かつ、適切な情報所得を継続的に行っているか	A
10.3 地方出入国在留管理局により認められた申請等取次者を配置しているか	A
10.4 入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っているか	A
10.5 在留に関する学生の最新情報を正確に把握しているか	A
10.6 在留上、問題のある学生への個別指導を行っているか	A
10.7 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与等を発生させないための取組を継続的に行っているか	A
10.8 過去3年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させない	A

【現状・具体的な取り組み/課題】

- ・ 出入国在留管理庁への提出書類や入国・在留に関する担当者を特定し対応している。出入国在留管理庁からの説明やアドバイスを教職員全員で共有し、学生への指導に反映している。

11. 教育環境	評価
11.1 教室内は、十分な照度があり、換気がなされているとともに、語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されているか	A
11.2 授業時間及び学生数に応じた図書が可能な設備や教育用機器を整備しているか	A
11.3 教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備され、常時利用可能であるか	B

11.4	視聴覚教材や IT を利用した授業が可能な設備や教育用機器を整備しているか	A
11.5	教員及び職員の執務に必要なスペースを確保しているか	A
11.6	同時に授業を受ける学生数に応じた数のトイレを設置しているか	B
11.7	法令上必要な設備等を備えているか	A
11.8	廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状であるか	A
11.9	バリアフリー対策を施しているか	B

【現状・具体的な取り組み/課題】

- ・ 学校における教育環境は、自然が豊かで心身ともに語学教育に適している。
また教室内は照度、換気、衛生管理などが整備されており、学生の自習室、談話室、食事の場所などが設置されている。教室内は学生自らの消毒作業や美化作業と共に、清掃員による構内清掃も毎日行われている。
- ・ 学生数の増加にともない設置トイレ数が足りない状況であるが、施設内のトイレを共用している。
- ・ 図書室を設置している。蔵書数について、更に充実させたい。

12. 入学者と募集と選考		評価
12.1	理念・教育目標に沿った学生の受け入れ方針を定め、年間募集計画を策定しているか	A
12.2	職員が入学志願者に対して情報提供や入学相談を行っているか	A
12.3	教育内容、教育成果を含む最新、かつ、正確な学校情報、求める学生像、及び応募資格と条件が入学希望者の理解できる言語で開示されているか	A
12.4	海外の応募代理人（エージェント等）に最新、かつ、正確な情報提供を行うとともに、その応募活動が適切に行われていることを把握しているか	A
12.5	入学選考基準及び方法が明確化され、適切な体制で入学選考を行っているか	A
12.6	学生情報を正確に把握し、提出された根拠資料等により確認を行っているか。不法残留者が多く発生させている国からの志望者については、学校関係者（職員等）が面接などの調査を行うよう努めているか	A
12.7	入学志願者の学習能力、勉学意欲、日本語能力等を確認するとともに、受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認しているか	A
12.8	入学検定料、入学金、授業料、その他納付金の金額及び納付機関、並ぶに学費以外に休学後必要になる費用が明示されているか	A
12.9	関係諸法令に基づいた学費返還規程が定められ、公開されているか	A

【現状・具体的な取り組み/課題】

- ・ 年間募集計画に準じ、4月期生と10月期生を受け入れている。募集に際しては事務スタッフが現地へ赴き説明や面接を行い、日本語レベルテストは Zoom にて教務主任が実施。

海外募集代理人（エージェント）とも密に連絡を取り、正確な情報交換をしている。
また海外入学希望者にむけ HP の充実も図っている。（多言語化への対応）

13. 財務	評価
13.1 財務状況、中長期的に安定しているか	A
13.2 予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれているか	A
13.3 適正な会計監査が実施されているか	A

【現状・具体的な取り組み/課題】

・ 当校は社会福祉法人傘下の学校であるので、安定的な学生確保に注力している。財務管理についても公明公正に実施している。

14. 法令遵守	評価
14.1 法令遵守に関する担当者を特定しているか	A
14.2 教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行っているか	A
14.3 個人情報保護のための対策をとっているか	A
14.4 地方出入国在留管理局、その他関係官公庁、日振協等への届出、報告を遅滞なく行っているか	A

【現状・具体的な取り組み/課題】

・ 月次で出入国在留管理庁や官公庁への報告を担当者を設けて実施している。
教職員へのコンプライアンス意識を高めるため、適宜研修の機会を設けている。

15. 地域貢献・社会貢献	評価
15.1 日本教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A
15.2 学生ボランティア活動への支援を行っているか	B
15.3 公開講座等を実施しているか	B

【現状・具体的な取り組み/課題】

・ 今後地域貢献できる取組を計画している。
奈良県の外国人介護人材の広報活動に協力している。
外部団体からの視察を積極的に受け入れるとともに、大学の公開講座等に参加し情報を発信している。

・ 地域住民の理解と協力を得るように努めている。また、地域住民に学校施設を開放して、活用していただいている。

・ 今後とも学生ボランティア活動の時間の確保と支援に努めたい。